

国際将棋フォーラム 2024 開催

副理事長 松岡 信行

日本将棋連盟は、2024年11月7日(木)～9日(土)に東京・千駄ヶ谷の「新将棋会館」「旧将棋会館」などで「国際将棋フォーラム 2024」を開催。内容は多岐に亘り、千駄ヶ谷小学校での交流イベントを皮切りに、前夜祭・第9回国際将棋トーナメント・国際将棋道場・国際オープン大会・指導対局等、正に多種多様なイベントが繰り広げられた。

ISPSは、協力団体として、通訳を中心に全てのイベントに関わった。各会場には、大看板がそれぞれに設置されたのであるが、その全てに、「協賛 囲碁将チャンネル」「特別協力 読売新聞社／産経新聞社／日本経済新聞社」「個人協賛 渥美雅之」の文字とともに、「協力将棋を世界に広める会」と大書されたことを、まずは報告したい。

11月7日(木)に東京・市ヶ谷のホテルにて、「前夜祭」が開催された。羽生会長始め、およそ60名の棋士・連盟関係者と、出場選手・通訳を合わせ、約120名が参加しての盛大な会であった。この会で、山田彰理事長が乾杯の発声を行ったのであるが、その際にスピーチを添えた。日本語と英語とを交互に用いた、通訳無しのスピーチは、その内容を含め、まさに圧巻であった。



乾杯の音頭を取る山田理事長

その後、参加者達の懇談にはいり、それと同時に、第9回国際将棋トーナメントに参加する各選手、51名の予選リーグの組合せが発表された。続けて出場選手一人一人の挨拶があった。その際、英語に対しての通訳は連盟が用意したが、他の言語、中国語は小針副理事長、スペイン語は山田理事長、ロシア語は杉浦理事が通訳に当たった。ぶっつけ本番の通訳。普通は、皆、尻込みするのであるが、3人の、その淀みない通訳ぶりは、見事の一言に尽きる。その間、ISPSから参加した残る8名は、会場のあちこちに散らばり、通訳をかねながら、選手達との親睦を深めていたのである。

「第9回国際将棋トーナメント」に関しては、世界各国および地域で代表選考大会が行われ、45の国と地域から、事前に、合計51名の代表選手が決定し、1日目は4人1組で13ブロックに分かれて、予選リーグを戦い、Aトーナメント（予選2勝者）とBトーナメント（予選2敗者）出場選手を決定。両トーナメントともベスト4まで絞り込み、2日目はベスト4の対戦が行われた。BトーナメントはCarlos Daniel Muñoz Guerra選手（メキシコ代表）がEduard Panko選手（スロバキア代表）に勝ち優勝。Aトーナメントは許諾選手（中国代表）がMICHAEL WANG選手（アメリカ代表）に勝って優勝を決めた。

その後、藤井聡太竜王・名人とAトーナメント優勝者の許諾選手の角落ち記念対局が行われ、藤井竜王・名人が圧勝した。同時に大盤解説会が行われたのであるが、羽生善治会長が解説役を務めると言う、将棋連盟としては、正に、大盤振る舞いの大会となった。日本将棋連盟の海外普及への熱の入れ方が伝わってきた。

その間も、東京・千駄ヶ谷の「旧将棋会館」では、国際将棋トーナメントに参加した外国の選手との交流を目的にした「国際将棋道場」が開かれ、また、外国人の方を対象にした「国際オープン大会」が催された。また、同じ「旧将棋会館」では、11月8・9日（金・土）の両日にわたり、棋士・女流棋士による「指導対局」を行なわれ、ISPSの顧問である青野照市九段をはじめとして、野月浩貴八段、糸谷哲郎八段、中村太地八段、大野八一雄七段、近藤正和七段、遠山雄亮六段、北尾まどか女流二段、和田はな女流1級、砂原奏女流2級が指導に当たった。



指導対局室の風景



指導対局中の青野照市九段

写真の「指導対局室の風景」が示すように、多くの方々が参加した。

「第9回国際将棋トーナメント」をはじめとして、すべてのイベントに対して、ISPS関係者が通訳として配された。



ISPSのブース：手前左 兒玉理事 手前右 高橋会員
後ろ左から 石黒理事 松岡副理事長 清水（規）会員

先に示した「第2回 都市対抗世界子ども将棋団体戦」決勝戦も、この会場の一角で行われたのであるが、同時に行われたISPSのイベントは、もう一つある。旧会館2Fの旧道場と旧研修室との間にある踊場に「ISPSのブース」を設けた。ISPSの沿革を記した3枚の大きなパネルと、沿革の事実を示す2枚の写真。

それと「ANA・全日空」の写真を壁に吊るし、テーブル上には、外国で創られた普及のための棋書と、将棋の駒を紹介。この日のために作成したパンフレットの配布や「かけはし」の展示を行った。多くの人が集まり、「沿革」を読み、パンフレットを手にし、数多くの質問もいただいた。これには一つの仕掛けがある。「懸賞詰将棋」2題を模造紙大に引き伸ばし、写真の左側の壁に貼ったのである。多くの人々が詰将棋に集まり、解答を考える中で、壁に目をやりテーブルの上に目を落としていた。作戦成功と言ったところか。ちなみに、掲載したブースの写真は、将棋連盟の公式SNSで全国で紹介されたものである。「国際将棋フォーラム2024」を引き継ぐ形で、11月10日（日）に「第50回 将棋の日」のイベントが渋谷区役所で開かれ、海外から来た選手と事前に応募した方々を対象とした「100面指し」が行われた。ここにも、ISPSに通訳の要請があり、松岡副理事長・寺



レーヴェキャンプ・ヨーロッパ将棋連盟会長に対し、一手指す、羽生会長

尾理事・市木理事が参加した。羽生善治会長をはじめとし、藤井聡太七冠・渡辺明九段・佐藤天彦九段など錚々たる顔ぶれが、一手ずつ指し継いでいく風景は格別であった。